

授業科目	授業番号： 254			担当者	浅海 真弓
	生活化学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生活の中にある化学物質や現象について学び、化学の役割について考える。 【概要】私たちの生活には、様々な化学物質や化学的な現象が関わっている。この授業では、衣生活に関わる物質や現象を取り上げ、化学の力やしぐみを学ぶ。主に被服の洗浄（被服整理学分野）と染色のメカニズム（染色加工学分野）について解説する。 【到達目標】化学的な視点から洗浄や染色の現象について理解し、被服の適切な管理に活かすことができる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本衣料管理協会刊行委員会編『改訂 被服整理学』日本衣料管理協会 日本衣料管理協会出版部会編『染色加工学』日本衣料管理協会 和歌山県工業技術センター編『現場で役立つプラスチック・繊維材料のきほん』コロナ社				
授業 スケジュール	第 1 回 生活の中の化学 － 洗濯の化学, 染色の化学 第 2 回 被服整理 1 － 被服の汚れ（汚れの分類） 第 3 回 被服整理 2 － 被服の洗浄（洗濯用水と洗剤） 第 4 回 被服整理 3 － 被服の洗浄（界面活性剤の種類と働き） 第 5 回 被服整理 4 － 被服の洗浄（配合剤の種類と働き） 第 6 回 被服整理 5 － 被服の洗浄（洗濯条件と洗浄力の関係） 第 7 回 被服整理 6 － 被服の洗浄（商業洗濯） 第 8 回 被服整理 7 － しみ抜き 第 9 回 被服整理 8 － 漂白と増白 第 10 回 被服整理 8 － 柔軟仕上げ, 被服の保管（防虫・防カビ） 第 11 回 染色加工 1 － 染色の方法（浸染と捺染） 第 12 回 染色加工 2 － 染料の種類（天然染料） 第 13 回 染色加工 3 － 染料の種類（合成染料）, 染料と繊維の結合 第 14 回 染色加工 4 － 染色堅ろう度（変退色と汚染） 第 15 回 染色加工 5 － 繊維加工（外観・風合いを変える加工と機能加工）				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）				
成績評価の方法	レポート（45%）＋ 授業ごとに提出するワークシート（35%）＋ 課題（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 255			担当者	北 一浩
	ビジュアルデザイン論 I			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】デザインを学ぶ上で前提となる、アイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。 【概要】ビジュアルデザインのみならず様々な分野で求められるアイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。アイデアの生み出し方を段階的に講義していく。 【到達目標】アイデアとは何かを理解し、その生み出し方を習得する。また、それらが日常の多様な場面で活用できることを理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 導入：アイデアとは？ 第 3 回 発想の準備 1：もっと楽しもう 第 4 回 発想の準備 2：自分を信じよう 第 5 回 発想の準備 3：「その気」になろう 第 6 回 発想の準備 4：子供に戻ろう 第 7 回 発想の準備 5：「知りたがり」になろう 第 8 回 発想の準備 6：笑われることを恐れるな 第 9 回 発想の準備 7：「考え方」のヒント 第 10 回 発想の準備 8：いろいろなものを組み合わせよう 第 11 回 発想のプロセス 1：質問を変えてみよう 第 12 回 発想のプロセス 2：情報をかき集めよう 第 13 回 発想のプロセス 3：いったん全部忘れてしまおう 第 14 回 発想のプロセス 4：ひらめいたら実践しよう 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	プレゼンテーション（60%） 提出課題（40%）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。				

授業科目	授業番号： 256			担当者	徳永 孝平
	住生活学			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生活環境をとりまく建築計画理論の学習と計画手法の習得 【概要】建築計画における基本的な検討要因や手法を事例を交え解説しつつ、建築設計立案における要件の多様性を理解し、住環境の将来展望を問う。 【到達目標】建築計画の基本的な原理を理解しつつ、現代生活に対応し得る設計、計画手法の知識を習得する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 建築計画教材研究所 編「改訂版 建築計画を学ぶ」理工学図書 (2) 日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料」丸善				
授業 スケジュール	第 1 回 建築をつくるということ 第 2 回 実務における住生活学 1 第 3 回 実務における住生活学 2 第 4 回 建築行為の流れ・建築計画とは 第 5 回 空間と行為・風土と建築 第 6 回 建築と文化 第 7 回 寸法の計画 第 8 回 プランニング演習 室空間のプランニング 第 9 回 近現代建築について 1 第 10 回 近現代建築について 2 第 11 回 計画の手がかり 1 機能と規模 第 12 回 計画の手がかり 2 動線の計画 第 13 回 計画から設計へ 1 住宅 第 14 回 計画から設計へ 2 公共施設 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	総合レポート (40%)、レポート・課題 (60%)				
実務経験について	一級建築士事務所 atelier SALAD 主宰				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目, 教職必修

授業科目	授業番号： 257			担当者	坂上 ちえ子
	色彩学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。 【概要】「色」は身近にあるため、好き、嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では、色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和、色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。 【到達目標】基礎理論を習得し、それらをコーディネートなどに応用できることと、色彩に関する検定に挑戦することを目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所 (2) 随時紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み 第 3 回 色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名 第 4 回 色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系 第 5 回 色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色 第 6 回 色の基礎知識 5：照明：演色性 第 7 回 色の基礎知識 6：色彩の心理① 色の見えの効果 第 8 回 色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ 第 9 回 色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式 第 10 回 色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法 第 11 回 色の基礎知識 10：色彩調和論 第 12 回 色の応用 1：色彩計画 第 13 回 色の応用 2：色と文化 第 14 回 色の応用 3：商品と色 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 258			担当者	浅海 真弓
	衣生活学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択（注）	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】衣服について様々な側面から多角的に学び、生活における衣服の役割について考える。 【概要】衣服の歴史や着用目的、衣服の機能、衣服素材の特性、衣服の管理方法などの内容を取り上げ、快適、安全で豊かな衣生活を送るために必要な知識を習得する。 【到達目標】衣服の役割を理解し、衣生活に関わる多様な知識を習得する。そして、自らの衣生活の現状と問題点を把握し、解決に向けて実践できるようになる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 酒井豊子、藤原康晴編著『ファッションと生活—現代衣生活論』放送大学教育振興会				
授業 スケジュール	第 1 回 衣服と人間 — あなたはなぜ服を着ますか？ 第 2 回 衣服と民族 — 気候風土と民族衣装の形態 第 3 回 衣服の変遷 1 — 西洋の服装の変遷 第 4 回 衣服の変遷 2 — 日本の服装の変遷 第 5 回 衣服の装いと心理 — 服装から受ける印象と引き起こされる感情 第 6 回 衣服の素材 1 — 繊維の種類と特徴 第 7 回 衣服の素材 2 — 糸・布の種類と特徴 第 8 回 衣服の管理 1 — 洗濯（家庭洗濯、洗剤の品質表示） 第 9 回 衣服の管理 2 — 漂白、柔軟仕上げ、糊付け、アイロン仕上げ、保管 第 10 回 衣服の管理 3 — 〈実習〉しみ抜き 第 11 回 衣服の品質と表示 — 組成表示、取扱い表示、サイズ表示 第 12 回 衣服の機能と快適性 1 — 衣服による体温調節（衣服内気候） 第 13 回 衣服の機能と快適性 2 — 動きやすさと拘束性（衣服圧） 第 14 回 衣服の設計 — 乳幼児・高齢者の衣服への配慮と工夫、ユニバーサルファッション 第 15 回 衣服の生産と流通／衣服と環境 — アパレル産業と既製服、衣服の廃棄とリサイクル				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）				
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋ 授業ごとに提出するワークシート（35%）＋ 課題（15%）				
実務経験について	なし				

（注）教職必修

授業科目	授業番号： 259			担当者	坂上 ちえ子
	ファッション造形基礎			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。 【概要】まず基礎縫いを行い、縫製用具や機器の正確な使用法を身につける。つぎに、基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに、編物、刺繍など手芸の基礎も学ぶ。 【到達目標】裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製、手芸技法を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 基礎縫い 1：手縫い① 用具の説明，並縫い 第 3 回 基礎縫い 2：手縫い② まつり縫い，他 第 4 回 基礎縫い 3：手縫い③ ボタン，スナップつけ 第 5 回 基礎縫い 4：ミシン縫製 ミシン，ロックミシン 第 6 回 上衣（チュニックブラウス）製作 1：人体計測と製図 第 7 回 上衣（チュニックブラウス）製作 2：裁断，しるしつけ 第 8 回 上衣（チュニックブラウス）製作 3：仮縫い，試着 第 9 回 上衣（チュニックブラウス）製作 4：本縫い① 第 10 回 上衣（チュニックブラウス）製作 5：本縫い② 第 11 回 上衣（チュニックブラウス）製作 6：仕上げ，着装評価 第 12 回 工芸 1：織り 第 13 回 工芸 2：毛糸かぎ針編み 第 14 回 工芸 3：フランス刺繍 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	なし				

（注）教職必修

授業科目	授業番号： 260			担当者	坂上 ちえ子
	消費生活論			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 私たちが「生活すること」は「消費すること」である。消費者問題とその背景を知り、課題と解決、関連する事項を学ぶ。 【概要】 2004 年に改正消費者保護基本法「消費者基本法」が施行され、消費者の権利が明記された。その中に、「教育の機会の確保」があり、自ら学び、協働して課題を解決することが求められている。主体的に参画できるよう基礎知識を身に付ける。 【到達目標】 保護されるべき消費者ではなく、生産企業や社会問題との関わりを見直し、真に自立した消費者となることを目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 随時紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 消費者問題 1：消費者問題とは 第 3 回 消費者問題 2：消費者教育 第 4 回 消費者問題 3：表示と消費者 第 5 回 消費者問題 4：消費者行政 第 6 回 消費者問題 5：特定商取引と契約トラブル① 第 7 回 消費者問題 6：特定商取引と契約トラブル② 第 8 回 消費者問題 7：消費者の安全 第 9 回 消費者問題 8：地球環境とエネルギー需給 第 10 回 関連基礎事項 1：企業と経営の基礎知識 第 11 回 関連基礎事項 2：経済と金融の基礎知識 第 12 回 関連基礎事項 3：生活経済と家計 第 13 回 関連基礎事項 4：社会保障制度の概要 第 14 回 関連基礎事項 5：衣・食・住生活における消費者問題 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	消費生活アドバイザー，消費生活相談員の有資格者				

授業科目	授業番号： 261			担当者	浅海 真弓
	被服材料学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】衣服を構成している繊維，糸，布それぞれの特徴を知り，これらが総合された被服材料の特性について学ぶ。 【概要】繊維や糸，布の種類や構造などについて概説した後，被服材料の諸性質と関連させて解説する。サンプルや映像の紹介，簡単な実験を取り入れながら，身近な衣服の素材に対する理解を深める。 【到達目標】いつも自分が着ている衣服の素材や構造，特性を理解し，これらの知識を衣服の製作・購入，着用，洗濯，保管などの場面で活用できるようになる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学〔第3版〕』建帛社 日下部信幸著『生活のための被服材料学』家政教育社				
授業 スケジュール	第 1 回 繊維とは？－繊維の歴史 第 2 回 繊維の構造－繊維の分子，繊維の分類 第 3 回 天然繊維 1－植物繊維（綿，麻） 第 4 回 天然繊維 2－動物繊維（羊毛） 第 5 回 天然繊維 3－動物繊維（絹） 第 6 回 化学繊維 1－再生繊維（レーヨン，キュプラ） 第 7 回 化学繊維 2－半合成繊維（アセテート，トリアセテート） 第 8 回 化学繊維 3－合成繊維（ナイロン，ポリエステル，アクリル），繊維の性能比較 第 9 回 新しい繊維－繊維化技術の発展と高機能素材 第 10 回 糸の種類と構造 1－紡績糸・フィラメント糸の性質 第 11 回 糸の種類と構造 2－糸の太さにより 〈ミニ実験：糸の観察〉 第 12 回 布の種類と構造 1－織物の組織と性質 第 13 回 布の種類と構造 2－編物の組織と性質 第 14 回 布の種類と構造 3－不織布の性質，布の構造特性 〈ミニ実験：織物の観察〉 第 15 回 被服材料の性質－耐久性，外観特性，快適性				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）				
成績評価の方法	筆記試験（50％）＋授業ごとに提出するワークシート（35％）＋課題（15％）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 262			担当者	浅海 真弓
	生活化学実験			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	実験方式
テーマ及び概要	【テーマ】被服の素材や洗濯、染色についての知識を深め、科学的に考察する力を身につける。 【概要】被服材料学（繊維・糸・布の性質）、被服整理学（洗濯・漂白処理等の効果）および染色学（染色方法、染色堅ろう度）に関連する実験を行う。 ※ 生活化学および被服材料学を履修しておくことが望ましい。 【到達目標】被服に関わる各種試験や染色の技術を習得する。また、レポートの作成方法を習熟し、感覚的にではなく具体的根拠に基づいて論理的に考える力を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント（実験書配布） (2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学〔第3版〕』建帛社 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本規格協会編『JIS ハンドブック 31 繊維』日本規格協会				
授業 スケジュール	第 1 回 実験の説明 — 実験を行う上での注意点、レポートの作成方法 第 2 回 糸の太さ — 番手の測定 第 3 回 織物の構造 — 厚さ・目付・含気率・織り縮み率の測定 第 4 回 吸水性試験 — バイレック法および吸水率法 第 5 回 繊維の燃焼性 — 繊維の燃え方・におい・灰の観察 第 6 回 繊維の染色性 — 繊維と染料の相性 第 7 回 繊維の溶解性 — 混用率の測定 第 8 回 糊付け・柔軟仕上げの効果 — 剛軟度の測定 第 9 回 漂白・蛍光増白の効果 — 目視観察および機器による測定 第 10 回 洗浄試験 — 洗浄力の評価 第 11 回 合成染料による染色 — 直接染料・反応染料（染色堅ろう度試験用染色布の作成） 第 12 回 染色堅ろう度試験 1 — 洗濯堅ろう度 第 13 回 染色堅ろう度試験 2 — 摩擦堅ろう度 第 14 回 天然染料による染色 — 媒染した染色布の色彩比較 第 15 回 工芸染色 — 絞り染め				
授業外学習 (予習・復習)	事前に実験書を精読し、実験の目的や方法を理解しておくこと。実験後は結果を整理し、考察してレポートを作成すること。				
成績評価の方法	実験ごとに提出するレポート・課題（70%）＋ 実験への取り組み（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 263			担当者	中島 一喜
	食物と栄養			授業外対応	授業終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食物に含まれている栄養成分と加工利用方法について学ぶ。 【概要】食物に含まれている水分，炭水化物，脂質，タンパク質，ミネラル，ビタミン，その他成分を紹介し，食物の保存や調理中に生じる栄養成分の化学的な変化について解説する。 【到達目標】食物に含まれている種々の栄養成分やその働き，および加工利用方法について理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) 太田英明・白土英樹・古庄律編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第 3 版』南江堂				
授業 スケジュール	第 1 回 人間と食物，食品加工 第 2 回 穀類の栄養 第 3 回 穀類の加工利用 第 4 回 いも類の栄養と加工利用 第 5 回 豆類の栄養と加工利用 第 6 回 野菜類の栄養 第 7 回 野菜類の加工利用 第 8 回 果実類の栄養 第 9 回 果実類の加工利用 第 10 回 きのこと，海藻類の栄養と加工利用 第 11 回 食肉類の栄養と加工利用 第 12 回 魚介類の栄養と加工利用 第 13 回 乳類の栄養と加工利用 第 14 回 卵類の栄養と加工利用 第 15 回 油脂，調味料の栄養と加工利用				
授業外学習 (予習・復習)	授業後のノート整理など復習を確実に行うこと。				
成績評価の方法	筆記試験 70%，授業への取り組みや授業中の課題 30%				
実務経験について	国立研究開発法人の研究機関において研究職に従事				

授業科目	授業番号： 264			担当者	立石 百合恵
	調理学			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】食品素材を食べやすくするための調理操作を、基礎的、系統的、科学的理論で解明し実際に役立つよう体系化して再現できる法則を見出す。 【概要】・自然科学の手法により、調理過程中に生じる種々の諸現象を確認する。・調理操作、味、食品素材、調理と生活環境について学ぶ。 【到達目標】調理学の意義を理解し、調理の体系的な理論を実生活に応用し役立てる能力を培う。 基本的な調理操作法の習得。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) オールガイド食品成分表 実教出版株式会社 (2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院 石松成子 鋸 吉 外西壽鶴子 NEW 基礎調理学				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 調理学の意義 第 2 回 調理科学：砂糖の温度変化による変化について 第 3 回 調理の基本：調味料の働きと特徴について 第 4 回 調理の基本：食事と栄養素・調理器具について 第 5 回 調理科学：卵の熱変性について 第 6 回 調理の基本：卵類・乳類・豆類の特徴について 第 7 回 調理科学：小麦粉の特性について 第 8 回 調理の基本：穀類の調理的意義・芋類・でん粉類・油の特性について 第 9 回 調理科学：油の乳化について 第 10 回 魚の基本と操作：鹿児島県の食材調理（魚介） 第 11 回 調理科学：ゲル化剤の特徴について 第 12 回 調理の基本：海藻類・魚類・肉類について 第 13 回 調理の基本：野菜類・果実類・きのこ類について 第 14 回 調理の基本：嗜好飲料類・香辛料類・調理加工食品について 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（100%）				
実務経験について	病院・介護施設で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、育児支援、講演会活動など。				

授業科目	授業番号： 265			担当者	立石 百合恵
	調理実習			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択(注)	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】調理理論と調理操作の融合。 【概要】・具体的な調理操作（和・洋・中）を行い、それぞれの献立について学び、調理技術を向上させる。・食環境整備の有効性を学ぶ。・清潔な食品の取り扱いの習得。・食事の作法とマナーについて学習する 【到達目標】基本的な調理技術の習得と清潔で安全な調理操作の習得。食育による社会適応力の習得。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 石原三妃ら共著 あすの健康と調理 アイ・ケイコーポレーション (2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション（調理の意義と目的、実習方法について） 第 2 回 日 本 料 理：米のガス炊飯 若竹汁、煮魚、春野菜のお浸し 第 3 回 西 洋 料 理：ロールパン、スープ（ミネストラーネ）、ハンバーグステーキ（付け合わせ：野菜ソテー）、コーヒー 第 4 回 日 本 料 理：親子丼、潮汁、なます、サイダー寒 第 5 回 中 国 料 理：白飯、酢豚、麻婆豆腐、杏仁豆腐 第 6 回 非常時の料理：インスタント食品、IH 調理器を用いた調理 第 7 回 西 洋 料 理：ガーリックトースト、マカロニグラタン、トマトのラビゴットソースサラダ 第 8 回 圧力鍋を用いた調理、焼き菓子（スコーン） 第 9 回 中 国 料 理：中華粥、カニと野菜のスープ、焼き餃子、月餅 第10 回 日 本 料 理：茶飯、茶碗蒸し、鶏のから揚げ、もずく酢（二杯酢かけ） 第11 回 西 洋 料 理：チキンカレー（イギリス風）、バターピラフ、コールスローサラダ、ブラマンジェ 第12 回 日 本 料 理：きつねうどん、いり鶏、おにぎり、ねぎ味噌、黒蜜かけ 第13 回 行 事 食：蒸し器で作るローストビーフ、クリスマスケーキ、紅茶 第14 回 郷 土 料 理：鶏飯、糸瓜のみそ炒め、ゴーヤチャンプルー、両棒餅、緑茶 第15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	実技試験（60％）筆記試験（30％）授業ごとの実技内容の評価（10％）				
実務経験について	病院・介護施設で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、育児支援、講演会活動など。				

(注)教職必修

授業科目	授業番号： 266			担当者	坂上 ちえ子・奥 章三・池堂 猛彦
	保育学			授業外対応	適宜対応(要予約)
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。 【概要】子どもは、出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして、子どもの発達には、周囲からの働きかけ（発達援助）が不可欠である。保育学講義では、保育（発達援助）の概念と実際を学ぶとともに、子どもの標準的な発育発達、子どもによくみられる病気と対処法、子どもの安全対策等、保育に必要な知識の習得を目指す。 【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し、説明ができるようになること。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 （担当 奥） 子どもの発達の特徴 ～乳幼児の発達と保育環境 第 2 回 子どもの発達の過程（その 1）～ 身体発育，運動発達 第 3 回 子どもの発達の過程（その 2）～ 精神発達，人間関係の発達 ～ 第 4 回 子どもの生活（その 1）栄養と食習慣、生活習慣の形成 第 5 回 子どもの生活（その 2）健康管理（子どもの病気への対応） 第 6 回 子どもの生活（その 3）事故の実態と防止 第 7 回 子どもの保育（その 1）保育の意義と重要性、保育環境 第 8 回 子どもの保育（その 2）保育の方法 第 9 回 子どもの保育（その 3）発達障害児への対応 第 10 回 講義の振り返り 第 11 回 （担当 坂上） 事前事後指導（その 1）：事前指導 第 12 回 （担当 池堂） 保育園における保育実習（その 1） 第 13 回 保育園における保育実習（その 2） 第 14 回 保育園における保育実習（その 3） 第 15 回 （担当 坂上） 事前事後指導（その 2）：事後指導				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	（担当 奥）筆記試験（100%） 各担当者が 100 点／3 で点数を算出した後，3 人の合計を総合点として評価する。				
実務経験について	奥 ： 病院に小児科医として勤務 池堂： 保育園の園長として勤務				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 267			担当者	浅海 真弓
	卒業研究A			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	4 単位	選択必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】被服材料学，被服整理学および染色加工学に関する課題について研究し，その成果をまとめる。 【概要】各自で研究テーマを設定し，課題を明らかにするための手法を検討して実験を行う。実験により得られたデータを図表にまとめて整理し，考察する。最終的に研究成果を論文にまとめ，卒業研究発表会で発表する。 【到達目標】自分で計画を立てて実験を遂行することにより，課題を解決していく力や科学的に考察する力を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 日本規格協会編『JIS ハンドブック 31 繊維』日本規格協会 福地健太郎，園山隆輔著『図解でわかる！理工系のためのよい文章の書き方』翔泳社				
授業 スケジュール	第 1 回 第 1 回 オリエンテーション（研究の進め方） 第 2 回 第 2 回～第 4 回 先行研究・参考文献の資料収集 第 3 回 第 5 回 資料収集の報告発表，研究テーマの設定 第 4 回 第 6 回～第 10 回 予備実験 第 5 回 第 11 回 予備実験の報告発表，研究テーマの確定 第 6 回 第 12 回～第 22 回 本実験 第 7 回 第 23 回～第 26 回 論文作成，追加実験 第 8 回 第 27 回～第 29 回 研究発表の準備（要旨・スライドの作成） 第 9 回 第 30 回 まとめ（要旨・スライド・論文の最終確認） 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 （予習・復習）	報告発表や課題を適宜指示するため，授業外での予習・復習・発表準備（資料・スライドの作成）が必要である。				
成績評価の方法	卒業論文（50％）＋ 研究発表（20％）＋ 授業および課題への取り組み（30％）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 268			担当者	未定
	卒業研究 A			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 269			担当者	坂上 ちえ子
	ファッション造形 I			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1 年	後期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。 【概要】衣服を平面製図法で行う場合、基本となる型紙（原型）の把握が重要である。まず、基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い、それらの手順と方法を学ぶ。さらに、上・下半身衣の原型とその展開について学び、理解する。 【到達目標】平面製図の方法を理解し原型展開ができることと、裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座 2 スカート・パンツ』文化出版局				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 下衣（スカート）製作 1：スカートの製図 第 3 回 下衣（スカート）製作 2：表布の裁断，印つけ 第 4 回 下衣（スカート）製作 3：仮縫い 第 5 回 下衣（スカート）製作 4：試着，補正 第 6 回 下衣（スカート）製作 5：表布の縫製 1 第 7 回 下衣（スカート）製作 6：表布の縫製 2 第 8 回 下衣（スカート）製作 7：ファスナーつけ 第 9 回 下衣（スカート）製作 8：裏布の裁断，印つけ 第 10 回 下衣（スカート）製作 9：裏布の縫製 第 11 回 下衣（スカート）製作 10：ベルトつけ 第 12 回 下衣（スカート）製作 11：仕上げ，着装評価 第 13 回 上衣（原型）製作 1：上半身衣の原型 第 14 回 上衣（原型）製作 2：上半身衣のデザイン展開 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	授業番号： 270			担当者	坂上 ちえ子
	ファッション造形Ⅱ			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。 【概要】基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法，その過程を学ぶ。デザインについては，着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう，また，製作については，目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。 【到達目標】上，下半身衣のデザインと製図展開ができることと，迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座 3 ブラウス・ワンピース』文化出版局				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 上衣（ブラウス）製作 1：デザインと製図 第 3 回 上衣（ブラウス）製作 2：裁断と印つけ 第 4 回 上衣（ブラウス）製作 3：仮縫い 第 5 回 上衣（ブラウス）製作 4：試着，補正 第 6 回 上衣（ブラウス）製作 5：見頃の縫製 第 7 回 上衣（ブラウス）製作 6：衿つくりと衿つけ 第 8 回 上衣（ブラウス）製作 7：袖つくりと袖つけ 第 9 回 上衣（ブラウス）製作 8：ボタンホール，ボタンつけ，仕上げ 第 10 回 下衣（パンツ）製作 1：デザインと製図 第 11 回 下衣（パンツ）製作 2：裁断と印つけ 第 12 回 下衣（パンツ）製作 3：仮縫い，試着，補正 第 13 回 下衣（パンツ）製作 4：縫製 第 14 回 下衣（パンツ）製作 5：仕上げ 第 15 回 着装評価，まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 271			担当者	坂上 ちえ子
	ファッションビジネス			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ファッションに対する理解を深めるため、デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。 【概要】衣服を大量生産，大量消費する時代は過ぎ，ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び，ファッション全体の背景や仕組みを捉える。 【到達目標】基礎知識を習得し，企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス [I]』財団法人 日本ファッション教育振興会				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2 回 ファッションビジネス知識 1：ファッションビジネスの特性 第 3 回 ファッションビジネス知識 2：ファッション生活・消費 第 4 回 ファッションビジネス知識 3：ファッション産業構造 第 5 回 ファッションビジネス知識 4：ファッションマーケティング 第 6 回 ファッションビジネス知識 5：ファッションマーチャンダイジング 第 7 回 ファッションビジネス知識 6：ファッション生産と物流，流通 第 8 回 ファッションビジネス知識 7：販売管理とプロモーション 第 9 回 ファッションビジネス知識 8：ビジネス基礎知識と計数管理 第 10 回 ファッション造形知識 1：ファッション文化・デザイン文化 第 11 回 ファッション造形知識 2：ファッションコーディネート 第 12 回 ファッション造形知識 3：ファッション商品知識－服種・アイテム 第 13 回 ファッション造形知識 4：ファッションデザイン 第 14 回 ファッション造形知識 5：パターンメイキングとファッションエンジニアリング 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋ 授業での活動内容（30%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 272			担当者	坂上 ちえ子
	卒業研究B			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	4 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】学生自らが設定した衣生活に関わる課題について、分析・研究し、成果をまとめる。 【概要】前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに、それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに、卒業研究発表会において、それらの研究成果を発表する。 【到達目標】まず、衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし、問題を解明するに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに、研究成果を文書にまとめることと、効果的な発表方法を身につけることを目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜配布 (2) 適宜紹介				
授業 スケジュール	第 1 回 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 第 2～10 回 卒業研究のための基礎知識 1：文献購読 第 3 回 第 11～12 回 卒業研究のための基礎知識 2：研究手法の検討・理解 第 4 回 第 13～15 回 卒業研究のための基礎知識 3：テーマ設定と文献・情報収集 第 5 回 第 16～23 回 卒業研究 1：各自の調査・研究・考察 第 6 回 第 24～27 回 卒業研究 2：論文作成 第 7 回 第 28～30 回 卒業研究 3：発表準備、練習 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	卒業研究成果 (60%) + 研究発表 (20%) + 授業での取り組み内容 (20%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 273			担当者	北 一浩
	ビジュアルデザイン基礎Ⅰ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 コンピューターを使用し、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。 【概要】 ビジュアルデザインの基礎となる、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な使用法及び、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。 【到達目標】 今後ビジュアルデザインのデザインワークに取り組むにあたり、基本となる考え方やソフトウェアの操作方法を習得する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 実践課題 1：幾何形態色彩構成 第 3 回 〃 第 4 回 〃 第 5 回 実践課題 2：ピクトグラム 第 6 回 〃 第 7 回 〃 第 8 回 実践課題 3：タイポグラフィ構成 第 9 回 〃 第10 回 〃 第11 回 応用課題：ポスターデザイン 第12 回 〃 第13 回 〃 第14 回 〃 第15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（60％） プレゼンテーション（40％）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。				

※本講座の受講生は「ビジュアルデザイン基礎Ⅱ」を必ず受講してください。

授業科目	授業番号： 274			担当者	上笹貫 鷹暁
	ビジュアルデザイン基礎Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 コンピュータを用いたビジュアルデザイン制作の基礎を学ぶ。 【概要】 ドローソフト「Adobe Illustrator」及び、画像編集ソフト「Adobe Photoshop」の基礎的な操作方法を学び、デザインワークに必要な表現技術と美的感覚を養う。 【到達目標】 デザインワークを行う上で必要十分な Adobe Illustrator / Adobe Photoshop の操作方法を習得する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 Illustrator の基本操作 1 オブジェクトの作成 第 3 回 Illustrator の基本操作 2 線と塗りの設定 第 4 回 Illustrator の基本操作 3 オブジェクトの編集 第 5 回 Illustrator の基本操作 4 ペンツール 第 6 回 Illustrator の基本操作 5 文字の編集 第 7 回 Illustrator の基本操作 6 画像の配置と編集 第 8 回 Illustrator の基本操作 7 レイアウトの基本 第 9 回 Photoshop の基本操作 1 基本操作と写真補正 第 10 回 Photoshop の基本操作 2 選択範囲とマスク 第 11 回 Photoshop の基本操作 3 レタッチと加工 第 12 回 実践課題 1 ポスター 第 13 回 実践課題 2 名刺 第 14 回 実践課題 3 チラシ 1 第 15 回 実践課題 3 チラシ 2				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業課題（100%）				
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務				

授業科目	授業番号： 275			担当者	上笹貫 鷹暁
	ビジュアルデザイン論Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】ビジュアルデザインと現代社会の関わりについて概観を得ることを通じて、地域の課題をデザインを用いて解決するための知識と思考力を身につける。 【概要】地域の課題に対しデザインを用いて解決しようとする取り組みが全国各地に多く存在する。前半ではビジュアルデザインの現代社会における役割と意義を学び、後半では実例を通じて地域の多面性とデザインの可能性について理解を深める。 【到達目標】現代のビジュアルデザインについて概観できる視野を身に付け、地域の課題を発見する力とデザインを用いて解決する力を養う。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション デザインとは 第 2 回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 1 レイアウトの法則 第 3 回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 2 カラーの法則 第 4 回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 3 文字の法則 第 5 回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 4 パッケージデザイン 第 6 回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 5 ブランディングデザイン 第 7 回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 6 写真表現 第 8 回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 7 映像表現 第 9 回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 8 広告コミュニケーション 第 10 回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 9 デジタルとデザイン 第 11 回 地域とデザイン 1 地域とデザイナー 第 12 回 地域とデザイン 2 リデザイン 第 13 回 地域とデザイン 3 コミュニティデザイン 第 14 回 地域とデザイン 4 アイデアの発想法 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業課題（40%） ＋ 期末課題（60%）				
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務				

授業科目	授業番号： 276			担当者	北 一浩・上笹貫 鷹暁
	ビジュアルデザインⅠ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 コンピューターを用いたビジュアルデザインの基礎的な制作を学ぶ。 【概要】 ビジュアルデザイン論Ⅰ・Ⅱ、ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱからの関連科目として、コンピューターを用いて基礎的な課題制作を行う。 【到達目標】 これまで学習した技術や概念を、コンピューターを使用して実媒体へと応用する。				
(1)テキスト	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。				
(2)参考文献	(2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 ポスターデザイン：公共問題をテーマとしたポスター制作 第 3 回 〃 第 4 回 〃 第 5 回 パッケージデザイン：実際に使用されているパッケージのリデザイン 第 6 回 〃 第 7 回 〃 第 8 回 ブックカバーデザイン：本学大学案内の表紙のデザイン 第 9 回 〃 第 10 回 〃 第 11 回 ポートフォリオ制作：各自のこれまでの作品をまとめたポートフォリオの制作 第 12 回 〃 第 13 回 〃 第 14 回 〃 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（60％） プレゼンテーション（40％）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。				

※本講座は「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」の受講生のみを対象とします。

授業科目	授業番号： 277			担当者	北 一浩
	ビジュアルデザインⅡ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】プロジェクト形式の課題を通して、ビジュアルデザインの実践的な制作を学ぶ。 【概要】ビジュアルデザインⅠからの関連科目として、プロジェクト形式の課題をグループで行い実践的な課題制作を行う。 【到達目標】実際のデザインの現場で行われるワークフローを学び、実践的なデザインスキルを身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 プロジェクト課題：ブランディングデザイン 第 3 回 // 第 4 回 // 第 5 回 // 第 6 回 // 第 7 回 // 第 8 回 // 第 9 回 // 第 10 回 自由課題：各自テーマを設定しデザインを行う 第 11 回 // 第 12 回 // 第 13 回 // 第 14 回 // 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題（60％） プレゼンテーション（40％）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。				

※本講座は「卒業研究 C」の受講生のみを対象とします。

授業科目	授業番号： 278			担当者	北 一浩
	卒業研究C			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	4 単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 ビジュアルデザインに関連した分野の研究。 【概要】 ビジュアルデザインに関連した分野から各自研究テーマを設定し、制作を通して新たな知見を発表する。 【到達目標】 研究テーマに関する作品制作を行い、展示及びプレゼンテーションを行う。				
(1)テキスト	(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。				
(2)参考文献	(2) 参考文献は適宜紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 第 1-2 回 オリエンテーション 第 2 回 第 3-4 回 以降スケジュールに関しても各自が管理し研究を進める。 第 3 回 第 5-6 回 随時進行に合わせて、テーマ審査、中間審査、最終審査を行う。 第 4 回 第 7-8 回 第 5 回 第 9-10 回 第 6 回 第 11-12 回 第 7 回 第 13-14 回 第 8 回 第 15-16 回 第 9 回 第 17-18 回 第 10 回 第 19-20 回 第 11 回 第 21-22 回 第 12 回 第 23-24 回 第 13 回 第 25-26 回 第 14 回 第 27-28 回 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研究成果（50%） プレゼンテーション（25%） 研究態度（25%）				
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。				

授業科目	授業番号： 279			担当者	田野 耕平
	住居史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】人と暮らしの歴史や建築の潮流を学び、現代における建築の課題と展望を学ぶ 【概要】先史時代から現代に至るまでの住居の変遷をたどり、自然・社会・文化・技術の変化とともに形成された住宅の構成や空間的特徴を学ぶ。日本と世界の事例を通して、住宅がどのように生活様式や価値観を映してきたかを理解し、現代および未来の住まいを考える基盤となる視点を養う。 【到達目標】住居の歴史的変遷と社会背景を理解し、現代の建築の課題と可能性を考察する力を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 柳沢究他著『住居計画入門』学芸出版社 (2) 佐々木誠 他著「住むための建築計画」彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：住居の起源 第 2 回 古代住居：生活様式と住居 第 3 回 中世の住居：高床住居、神殿造、書院造 第 4 回 近世の住居 1：町屋の系譜 第 5 回 近世の住居 2：農家の系譜 第 6 回 近世の住居 3：屋敷の系譜 第 7 回 近代の住居 1：社会問題と住居 第 8 回 近代の住居 2：モダニズム建築 1 第 9 回 近代の住居 3：モダニズム建築 2 第 10 回 近代の住居 4：工業化住宅 第 11 回 現代の住居 1：日本の集合住宅 第 12 回 現代の住居 2：世界の集合住宅 第 13 回 現代の住居 3：これからの住居 1 第 14 回 現代の住居 4：これからの住居 2 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	レポート(50%) 小テスト (50%)				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 280			担当者	穴戸 克実
	住居・インテリア設計学			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】建築空間を構成する様々な構成要素や表現方法について理解し、身近な生活空間について考える 【概要】建築とインテリアの基礎知識を学び、住居の平面構成や図面表現（平面図・立面図・透視図など）を通じて、住まいの設計技術を習得する。集合住宅、戸建住宅、三世代住宅などの間取りプランニングを行い、住まいに関する実践的な設計力を養う。さらに、商業施設の事例研究や発表・ディスカッションを通じて、幅広いデザイン力を身につけることを目指す。 【到達目標】住空間の設計技術を習得し、図面表現や間取りプランニングを通じて、建築とインテリアの幅広いデザイン力を身につける				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 阿部順子『建築・インテリアパース はじめの一步』学芸出版社、大塚篤『カタチから考える住宅発想法』彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：建築とインテリアの基礎知識 第 2 回 住居の平面構成：暮らしと間取り 第 3 回 図面表現：平面図，立面図，断面図，透視図① 第 4 回 図面表現：透視図② 第 5 回 図面表現：透視図③ 第 6 回 多様な住空間：異文化の空間構成 第 7 回 間取りプランニング：所要室の配置と規模 第 8 回 間取りプランニング：集合住宅 第 9 回 間取りプランニング：戸建平屋 第 10 回 間取りプランニング：戸建複層 第 11 回 間取りプランニング：三世代住宅 第 12 回 商業施設のデザイン：事例研究 第 13 回 商業施設のデザイン：発表・ディスカッション 第 14 回 商業施設のデザイン：発表・ディスカッション 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題・宿題 (30%)，小テスト (50%)，レポート (20%)				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理，都市コンサル企業で計画提案に従事				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目，教職必修

授業科目	授業番号： 281			担当者	穴戸 克実
	設計製図 I			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】建築設計製図の基本的事項について理解し，建築物を平面的・立体的に把握する能力を養う 【概要】簡易住宅を題材に模型と図面を製作し，設計製図の基礎を学ぶ。平行定規や製図道具の使用法を習得し，平面図・立面図・断面図の理解と作成を通じて縮尺や寸法の基礎を学ぶ。また，住宅を構成する空間についての理解を深め，課題を通じてエスキスやスタディ模型の制作，図面作成，模型写真撮影，最終的なプレゼンテーションを行うことで，設計力と表現力を養う。 【到達目標】平面図・立面図・断面図の作成を通じて設計製図の基礎を理解し，住宅設計における空間構成と表現力を身につける				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 小杉学『模型づくりからはじめる建築製図の基礎』彰国社，日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成〈住居〉』丸善				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：設計製図の基礎知識 第 2 回 製図と模型の基礎：模型作成の手順（立体 A） 第 3 回 製図と模型の基礎：平行定規の使用法（立体 B・C） 第 4 回 製図と模型の基礎：製図道具の使用法（住宅 A） 第 5 回 製図と模型の基礎：平面図・立面図・断面図の理解（住宅 A） 第 6 回 製図と模型の基礎：縮尺と寸法の理解（住宅 B） 第 7 回 製図と模型の基礎：平面図・立面図・断面図の作成（住宅 B） 第 8 回 設計課題：5つの空間住宅・課題説明 第 9 回 設計課題：エスキス，スタディ模型 第 10 回 設計課題：エスキス，スタディ模型 第 11 回 設計課題：模型作成 第 12 回 設計課題：模型作成・模型写真撮影 第 13 回 設計課題：図面作成（平面図） 第 14 回 設計課題：図面作成（立面・断面図） 第 15 回 設計課題：プレゼンテーション				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題（100%）				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理，都市コンサル企業で計画提案に従事				

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 282			担当者	田野 耕平
	設計製図Ⅱ			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】居住空間と公共空間の設計課題を通じて、建築的思考力と空間構成・表現技法を学ぶ。 【概要】設計課題に取り組み、敷地条件・機能要件・空間特性を整理しながら、建築的課題を的確に把握し設計意図を構築する能力を養う。個別指導やグループディスカッションを通して、発想を空間に具現化し、図面・模型・プレゼンテーションなど多様な手段による建築表現を修得する。＊空間デザイン論を履修すること 【到達目標】居住空間、公共空間の設計を通じて、諸条件の分析と評価、空間構成手法を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成第4版』丸善 (2) 本杉省三他著『建築デザインの基礎 製図法から生活デザインまで』彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：課題出題、条件の整理と敷地及び周辺環境の把握 第 2 回 木造小住宅の設計 1：配置計画、諸機能の構成と動線計画 第 3 回 木造小住宅の設計 2：平面計画 第 4 回 木造小住宅の設計 3：断面計画 第 5 回 木造小住宅の設計 4：立面計画、外構計画 第 6 回 木造小住宅の設計 5：ダイアグラム、模型、プレゼンテーション 第 7 回 木造小住宅の設計 6：提出、評価 第 8 回 木造小住宅の設計 7：講評、課題出題 第 9 回 ギャラリーの設計 1：条件の整理と敷地及び周辺環境の把握 第 10 回 ギャラリーの設計 2：配置計画、諸機能の構成と動線計画 第 11 回 ギャラリーの設計 3：平面計画 第 12 回 ギャラリーの設計 4：断面、立面計画、外構計画 第 13 回 ギャラリーの設計 5：ダイアグラム、模型、プレゼンテーション 第 14 回 ギャラリーの設計 6：提出、評価 第 15 回 ギャラリーの設計 7：講評				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業課題（100%）				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業				

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目 空間デザイン論を履修すること

授業科目	授業番号： 283			担当者	田島 康弘
	住居構造学 I			授業外対応	講義終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。 【概要】建物にはたらく力、木質構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎などの概要と特徴を講述し、建物を構成する構造体について学ぶ。 【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解して、構造上安全な建築物を設計又は説明できる基本的な能力が養われること。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造力学』、学芸出版社 (2) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造設計』、学芸出版社				
授業 スケジュール	第 1 回 構造設計という仕事 第 2 回 建物にかかる様々な荷重 第 3 回 木質構造 1 特徴と材料 第 4 回 木質構造 2 軸組構法（在来工法）と枠組壁構法（2×4 工法） 第 5 回 木質構造 3 現場見学 他 第 6 回 鉄骨構造 1 特徴と材料 第 7 回 鉄骨構造 2 建物ができるまで 第 8 回 鉄骨構造 3 現場見学 他 第 9 回 鉄筋コンクリート構造 1 特徴と材料 第 10 回 鉄筋コンクリート構造 2 建物ができるまで 第 11 回 鉄筋コンクリート構造 3 現場見学 他 第 12 回 基礎構造とその他の構造形式（プレストレストコンクリート構造 他） 第 13 回 主要構造部材（屋根、壁、床、天井、階段 他） 第 14 回 耐震設計（地震に強い建物） 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	レポート（80%）および授業での発言質問とその内容（20%）				
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。				

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 284			担当者	田島 康弘
	住居構造学Ⅱ			授業外対応	講義終了後
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。 【概要】住居構造学Ⅱ では、模型作成などの実習を通して力学の基礎を学び、構造物に作用する力によって部材に生じる力を求め、安全性を確認する。 【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型ラーメンの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 浅野清昭著、『やさしい建築構造力学 演習問題集』、学芸出版社 (2) 浅野清昭著、『図説 建築構造力学』、学芸出版社				
授業 スケジュール	第 1 回 建物の模型を作ろう 1 第 2 回 建物の模型を作ろう 2 第 3 回 力のモーメント（模型による演習含む） 第 4 回 力のつりあい（模型による演習含む） 第 5 回 構造物の支点（ローラー・ピン・固定） 第 6 回 反力の求め方 第 7 回 片持ばりに生じる力 第 8 回 単純ばりに生じる力 第 9 回 門型ラーメンに生じる力 第 10 回 トラスに生じる力 第 11 回 断面の性質（断面 1 次モーメント、断面 2 次モーメント、他） 第 12 回 部材に生じる応力度 第 13 回 片持ばり、単純ばりの変形 第 14 回 建築物の設計への応用 第 15 回 まとめ				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示（復習）				
成績評価の方法	レポート（80%）および授業での発言質問とその内容（20%）				
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。				

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 285			担当者	曾我 和弘
	住居環境学			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画 【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境（光・熱・空気・音環境）をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。 【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 建築と自然環境：建築と自然環境の関わり、自然環境に適応した建築 第 2 回 光環境計画 1：日照、日照時間、日影曲線、日影図、日影時間図 第 3 回 光環境計画 2：日射、太陽位置、日射量の計算、太陽エネルギー利用設備 第 4 回 光環境計画 3：採光、照明、視覚、測光量、昼光率、照明方式、室内照度の計算 第 5 回 光環境計画 4：光束法による照明計算、照明設備計画 第 6 回 熱環境計画 1：熱力学の第二法則、定常伝熱、熱伝導、熱対流、熱放射 第 7 回 熱環境計画 2：熱貫流率の計算、平均熱貫流率の計算 第 8 回 熱環境計画 3：住まいと結露、結露判定の計算 第 9 回 熱環境計画 4：温熱環境、代謝量、着衣量、PMV、局所不快感、温熱環境の基準、空調設備計画 第 10 回 空気環境計画 1：室内空気汚染、自然換気（温度差換気、風力換気）、機械換気 第 11 回 空気環境計画 2：室内ガス濃度、ザイデル式、必要換気量の計算 第 12 回 空気環境計画 3：機械換気設備、換気設備計画 第 13 回 音環境計画 1：音の強さ、音圧レベル、周波数補正、騒音レベル、音圧レベルの計算 第 14 回 音環境計画 2：騒音の防止、遮音、音響透過損失、コインシデンス効果、質量測、床衝撃音、吸音材料 第 15 回 音環境計画 3：室内音響計画、直接音、反射音、音響障害、残響時間、残響式、最適残響時間				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（80％）とレポート（20％）で評価する。				
実務経験について	なし				

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 286			担当者	曾我 和弘
	住居環境学演習			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	1 単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】身近な居住環境の快適性や健康性の計算と測定 【概要】居住環境の物理環境（光・熱・空気・音環境）の計算・測定を行い、これらの結果に基づいて、居住環境の快適性や健康性の評価を行う。住居における物理環境の計算・測定・評価法を修得すると同時に、パソコンと表計算ソフトを活用して、データの分析方法を学ぶ。以上より、環境にやさしい住居に対する理解を深める。 【到達目標】身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な計算・測定・評価方法を習得する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 クリモグラフの作成と気候に適した住居形態調査 第 2 回 日影図の作成と日照環境の評価 第 3 回 教室の照度分布測定と評価 第 4 回 教室の昼光率分布測定と評価 第 5 回 室内照明計算 第 6 回 定常伝熱計算（熱貫流率、伝熱量、表面温度） 第 7 回 定常伝熱計算（平均熱貫流率） 第 8 回 壁体の温度測定 第 9 回 壁体の結露判定計算 第 10 回 温熱環境の測定 第 11 回 温熱環境の分析と評価 第 12 回 必要換気量の計算 第 13 回 室内ガス濃度の測定 第 14 回 室内騒音の測定 第 15 回 室内騒音の分析と評価				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度，レポートの内容を総合的に評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 287			担当者	福永 知哉
	建築材料学			授業外対応	講義終了時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
	2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】住居を中心とした建築物を構成する材料の特質と使用方法を学ぶ 【概要】持続可能な社会を構築する質の高い建物を建設・管理するために建築材料の特性を知り、適材適所に材料を使用することが不可欠である。本講義では建築の歴史を含め、建築材料に関する基礎知識を概説する。 【到達目標】建築材料（構造材・仕上材）の種類や機能などの特性について、説明できることを目標とする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 松本進 「図説 やさしい建築材料」 学芸出版社 (2) 建築学会篇 「建築材料用教材」 彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：建築材料と構造 第 2 回 建築材料の歴史：日本建築と木構造 第 3 回 建築材料 1：建築モジュールと規格 第 4 回 建築材料 2：木材の特性 第 5 回 建築材料 3：コンクリートの特性(1) 第 6 回 建築材料 4：コンクリートの特性(2) 第 7 回 建築材料 5：コンクリートの配合と強度 第 8 回 建築材料 6：鋼材の建築と歴史 第 9 回 建築材料 7：鋼材の特性(1) 第 10 回 建築材料 8：鋼材の特性(2) 第 11 回 建築材料 9：焼成品(タイル・れんが・瓦)の特性 第 12 回 建築材料 10：ガラス・石材の特性 第 13 回 建築材料 11：左官材・ボード類の特性 第 14 回 建築材料 12：リフォーム実例から学ぶ仕上げ材 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験				
実務経験について	建築設計並びに工事監理				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	授業番号： 288			担当者	福永 知哉
	建築生産			授業外対応	講義終了時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
	2 年	後期	1 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】各種建築構造方式の生産過程について学ぶ 【概要】住居を中心にした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する必要がある。本講義では建築の品質・施工管理や施工技術の観点から建築生産のプロセスを概説する。 【到達目標】建築生産の概要を理解し、建物の企画、設計、施工、維持管理等の生産工程を習得することを目指す。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 大久保孝昭 『基礎から学ぶ建築生産』 学芸出版社 (2) 松村秀一、権藤智之 『建築生産』 市ヶ谷出版社				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：建築生産論 第 2 回 プロセス 1：関係法令 第 3 回 プロセス 2：建築市場の傾向 第 4 回 施工計画 1：仮設工事・土工事の工程管理 第 5 回 施工計画 2：RC 造・S 造の工程管理 第 6 回 施工計画 3：木造建築の工程管理 第 7 回 施工計画 4：各種工事の工程管理 第 8 回 まとめ 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験				
実務経験について	建築設計並びに工事監理				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

(注) 7.5 回

授業科目	授業番号： 289			担当者	上村 康孝
	建築法規			授業外対応	講義終了時
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】住宅をはじめとする建築物の安全性や快適性等を確保するための基本的なルールを定めた建築基準法等について学ぶ。 【概要】建築物は，人間の生活や社会活動の基盤であり，安全性や快適性等を確保するための最低基準を定めた建築基準法等を守らなければならない。建築物の安全・衛生を確保するための基準や市街地の安全・環境を確保するための基準を定めた建築基準法を中心に，建築法規について解説する。 【到達目標】住宅や店舗・事務所等の建築物を安全に建てる際に必要な建築法規の基礎を理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 「いちばんやさしい 建築基準法 改訂 2 版」 発行所：株式会社 新星出版社 (2) 適宜関連資料を配付				
授業 スケジュール	第 1 回 建築基準法は何のために (建築基準法の目的と構成，法規を理解するための用語) 第 2 回 とともに地域で生活していくために (道路，用途制限，容積率，建蔽率，高さ制限，まちづくり制度) 第 3 回 火災や災害から人命や財産を守るために (防火規定) 第 4 回 火災や災害時に安全に避難するために (避難規定) 第 5 回 安全な構造を維持するために (構造安全規定) 第 6 回 よりよい住環境のために (一般構造規定：採光，換気，衛生，階段等) 第 7 回 法が守られるために (制度規定，建築関連法規) 第 8 回 まとめ (建築基準法等の改正動向等) 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (70%) ミニテスト (30%)				
実務経験について					

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	授業番号： 290			担当者	穴戸 克実
	CAD設計			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】CAD やプレゼンテーションに関連する様々なソフトの基本的操作・作品表現方法について学ぶ 【概要】2次元CAD (Vectorworks) と3次元CAD (SketchUp) の基本操作を習得し、実践的な図面作成および立体設計を学ぶ。また、画像編集や動画制作 (Photoshop, iMovie), 地理情報活用 (Google Earth) などの関連ソフトを体験し、設計表現の幅を広げる。建築設計におけるデジタルツールの活用力を養い、実務で応用可能なスキルを身につけることを目指す。 【到達目標】デジタルツールの基本操作を習得し、建築設計における図面作成や表現力を高め、実務で応用可能なスキルを身につける				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 山川佳伸『10日でマスター! VECTORWORKS』エクスナレッジ, 阿部秀之『クリエイターのための SketchUp for Web 入門』エクスナレッジ				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：CAD について、関連ソフト・周辺機器について 第 2 回 2次元CAD：Vectorworks 基本操作 第 3 回 2次元CAD：Vectorworks 基本操作 第 4 回 2次元CAD：Vectorworks：図面作成 第 5 回 2次元CAD：Vectorworks：図面作成 第 6 回 2次元CAD：Vectorworks：地図・地形図 第 7 回 2次元CAD：Vectorworks：立体図 第 8 回 3次元CAD：SketchUp 作図課題 第 9 回 3次元CAD：SketchUp 作図課題 第10回 3次元CAD：SketchUp 作図課題 第11回 3次元CAD：SketchUp 作図課題 第12回 3次元CAD：SketchUp 作図課題 第13回 関連ソフトの理解：Vectorworks, SketchUp, iMovie, GoogleEarth, Photoshop 等 第14回 関連ソフトの理解：Vectorworks, SketchUp, iMovie, GoogleEarth, Photoshop 等 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題 (100%)				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理, 都市コンサル企業で計画提案に従事				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	授業番号： 291			担当者	穴戸 克実
	建築史			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】日本及び世界の建築・都市の歴史について学び、建築物や街並みの構成原理について考える 【概要】世界各地（ヨーロッパ、アフリカ、中東、アジア、日本）の都市空間や建築物の歴史を学び、建築文化の多様性とその背景を探る。古代から近代に至る西洋と日本の建築史を中心に、アメリカやアジア、中東、アフリカの都市発展の歴史、さらに市場やカフェ、広場といった公共空間の特徴を考察する。また、イスラーム地域の都市文化を具体例として取り上げ、多角的な視点で都市と建築の関係を理解する。 【到達目標】日本および世界の建築・都市の歴史を学び、建築文化の多様性や都市と建築の構成原理を多角的に理解する				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 深水浩『学びのポイント建築史』学芸出版社、原口秀昭『ゼロからはじめる建築の歴史入門』彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：鹿児島都市と建築 第 2 回 西洋建築史：古代建築 第 3 回 西洋建築史：中世建築 第 4 回 西洋建築史：近世建築 第 5 回 日本建築史：古代建築 第 6 回 日本建築史：中世建築 第 7 回 日本建築史：近世建築 第 8 回 西洋・日本建築史：近代建築 第 9 回 世界の都市の歴史：アメリカ、ヨーロッパ 第 10 回 世界の都市の歴史：日本、アジア 第 11 回 世界の都市の歴史：中東、アフリカ 第 12 回 世界の都市の公共空間：市場、カフェ、商店街 第 13 回 世界の都市の公共空間：広場、浴場、宗教施設 第 14 回 イスラーム地域の都市文化：トルコ・イラン・エジプト 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題 (30%)、小テスト (50%)、レポート (20%)				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理、都市コンサル企業で計画提案に従事				

(注) 二級建築士（木造建築士）免許登録時の要実務経験年数を 1 年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	授業番号： 292			担当者	矢戸 克実
	CAD設計特講			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】CAD とプレゼン技術を活用し、建築図面作成と地域分析スキルを実践的に習得する 【概要】CAD ソフトやプレゼン関連機器の基本操作を習得し、建築図面作成と地域分析に必要なスキルを磨く。前半では、地図データや3DCAD を用いた応用的な課題に取り組み、プレゼン資料作成を学ぶ。後半では、建築平面図、立面図、断面図、矩計図、地域分析図など、図面作成技術を実践的に学ぶ。 【到達目標】CAD とプレゼン技術を活用し、建築図面作成と地域分析に必要なスキルを実践的に習得する				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 榊愛『サクサク学ぶ AutoCAD・SketchUp・Photoshop・Illustrator』学芸出版社、長嶋竜一『建築とインテリアのための Photoshop+Illustrator テクニック』エクスナレッジ				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：CAD ソフトとプレゼン関連機器について 第 2 回 CAD と地図データ：地理院地図、GoogleEarth、ゼンリン地図 第 3 回 3DCAD と立体地形：SketchUp 第 4 回 3DCAD と街並み再現：SketchUp 第 5 回 CAD とプレゼンソフト：Vectorworks、Photoshop、その他 第 6 回 CAD とプレゼンソフト：Vectorworks、iMovie 第 7 回 課題 1：平面図 Vectorworks 第 8 回 課題 1：平面図 Vectorworks 第 9 回 課題 2：立面図・断面図 Vectorworks 第 10 回 課題 2：立面図・断面図 Vectorworks 第 11 回 課題 3：矩計図 Vectorworks 第 12 回 課題 3：矩計図 Vectorworks 第 13 回 課題 4：地域分析図 Vectorworks 第 14 回 課題 4：地域分析図 Vectorworks 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題 (100%)				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理、都市コンサル企業で計画提案に従事				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 免許登録時の要実務経験年数を 1 年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	授業番号： 293			担当者	穴戸 克実
	設計製図Ⅲ			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	前期	1 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】木造住宅や小規模施設の設計課題を通じて、設計力と作図力を実践的に養う 【概要】木造専用住宅や店舗併用住宅、小規模公共施設の設計課題に取り組み、課題文の理解やエスキス手法、要求図面の作成を通じて、設計力と作図力を養う。平面図・立面図・断面図・矩計図の作成に加え、軸組在来工法を理解するための模型制作も行い、実践的なスキルを体系的に身につける。建築士として必要な基礎的知識と技術を総合的に学ぶことを目指す。 【到達目標】木造住宅や小規模施設の設計を通じて、設計力、作図力、軸組工法の理解を深め、建築士に必要な基礎知識と技術を身につける				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 日建学院教材研究会『2 級建築士設計製図試験課題対策集』日建資料研究社、総合資格学院『2 級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格				
授業 スケジュール	第 1 回 はじめに：建築士資格と試験、課題文の理解、例題 第 2 回 エスキス課題 1：木造専用住宅 第 3 回 エスキス課題 2：木造併用住宅 第 4 回 エスキス課題 3：木造併用住宅 第 5 回 エスキス課題 4：鉄骨造・小規模な公共施設 第 6 回 エスキス課題 5：RC 造・小規模な公共施設 第 7 回 作図課題 1：木造併用住宅・平面図 第 8 回 作図課題 1：木造併用住宅・平面図 第 9 回 作図課題 2：木造併用住宅・立面図 第 10 回 作図課題 2：木造併用住宅・断面図 第 11 回 作図課題 3：木造・矩計図 第 12 回 作図課題 3：木造・矩計図 第 13 回 課題：軸組在来工法の理解・軸組模型 第 14 回 課題：軸組在来工法の理解・軸組模型 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題（100%）				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理、都市コンサル企業で計画提案に従事				

（注）二級建築士（木造建築士）免許登録時の要実務経験年数を 1 年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	授業番号： 294			担当者	穴戸 克実
	設計製図Ⅳ			授業外対応	適宜対応
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	通年	4 単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】地域に根ざした建築や都市の空間構成を考察し、地域課題の解決に向けた設計提案力を養う 【概要】計画力、分析力、作図力を身につけることを目指した設計製図の実践的な科目。前期では、地域や建築に関する情報を整理し、地域分析や模型・図面の制作を行いながらプレゼンテーションの基礎を学ぶ。後期では、地域の課題に取り組み、建築や都市の視点から提案を考え、図面や模型を用いて成果をまとめる。課題を通じて、設計の基礎的なスキルを段階的に高める。 【到達目標】地域の課題を分析し、建築・都市の視点から提案を行う計画力、分析力、作図力を身につける				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 松本茂章『地域創生は文化の現場から始まる』学芸出版社、國學院大學地域マネジメント研究センター『「観光まちづくり」のための地域の見方・調べ方・考え方』朝倉書店				
授業 スケジュール	第 1 回 【前期】 第 2 回 第 1 回～第 3 回〔課題 1〕建築及び都市研究、製作・事例研究、資料調査、現地調査 第 3 回 第 4 回～第 6 回〔課題 1〕地域分析・ディスカッション 第 4 回 第 7 回～第 9 回〔課題 1〕地域模型の作成 第 5 回 第 10 回～第 12 回〔課題 1〕プレゼン図の作成・発表 第 6 回 第 13 回～第 15 回〔課題 1〕各自の研究・制作対象地の調査・研究 第 7 回 【後期】 第 8 回 第 16 回～第 21 回〔課題 2〕建築及び都市研究、製作・構想検討 第 9 回 第 22 回～第 27 回〔課題 2〕建築及び都市研究、製作・構想検討 第 10 回 第 28 回～第 33 回〔課題 2〕発表・ディスカッション 第 11 回 第 34 回～第 39 回〔課題 2〕都市構成図、地域構成図作成 第 12 回 第 40 回～第 45 回〔課題 2〕平面図、立面図、断面図、その他図版 第 13 回 第 46 回～第 51 回〔課題 2〕模型・プレゼン資料作成 第 14 回 第 52 回～第 57 回〔課題 2〕発表資料、プレゼンボード 第 15 回 第 59 回～第 60 回〔課題 2〕要旨・発表・論文提出				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	前期授業課題 (40%)、後期授業課題 (60%)				
実務経験について	外食企業で店舗設計監理、都市コンサル企業で計画提案に従事				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 免許登録時の要実務経験年数を 1 年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	授業番号： 295			担当者	田野 耕平
	空間デザイン論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】空間デザインの事例分析を通して、建築の構成要素・設計手法・表現技法を学ぶ。 【概要】建築・インテリアの実例を示し、空間の主題を形づくる要素（光・素材・スケール・機能など）や、設計手法、コンセプトの表現方法を学びつつ、学生自身の課題製作へ応用する力を養う。 ＊設計製図Ⅱを履修すること 【到達目標】空間デザインにおける設計主旨、理念を学生自らが発案し、適切な表現でプレゼンテーションができるとともに他者作品についても意見を持てるようにする。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 本杉省三他著『建築デザインの基礎 製図法から生活デザインまで』彰国社 (2) 五十嵐太郎他著『図面でひもとく名建築』丸善出版 小嶋 一浩他著『空間練習帳』 彰国社				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス：空間デザインとは 第 2 回 空間の構成要素 1：部位（床・壁・天井）と空間 第 3 回 空間の構成要素 2：プロポーションとスケール 第 4 回 空間の構成要素 3：開口部と空間 第 5 回 空間の構成要素 3：光・素材と空間 第 6 回 空間の表記方法 1：平面図から空間を読む 第 7 回 空間の表記方法 2：断面図から空間を読む 第 8 回 空間の表記方法 3：配置図から空間を読む 第 9 回 機能と空間 1：公共空間 第 10 回 機能と空間 2：都市空間 第 11 回 機能と空間 3：階段と空間 第 12 回 空間の表現ツール 1：スケッチと空間表現（立体図によるプレゼンテーション） 第 13 回 空間の表現ツール 2：模型と空間表現 第 14 回 空間の表現ツール 3：空間の概念図 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題（50%） レポート(50%)				
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業				

設計製図Ⅱを履修すること

授業科目	授業番号： 296			担当者	未定
	空間デザイン I			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 297			担当者	未定
	空間デザインⅡ			授業外対応	
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 298			担当者	未定
	卒業研究D			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修／選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					